

石油・原子力・海洋エネルギーの情報を望む

上原春男*

本会が発足して早くも1年が過ぎようとしている。本誌もう6号が発刊された。本会は、我が国のエネルギー関係の最高権威者達によって結成された一大結社であるだけに、本誌に寄せられた論文は、我が国におけるこれまでのエネルギーに関する総決算とも言うべきものばかりで、毎回楽しみにしている。

私はこれらの論文を分割して、項目別にファイルにしている。そして今回、この原稿を書くに当たって、これらのファイルを改めて見た。そしてふと一瞬、“あれ”と思った。それは、石油と原子力と海のエネルギーに関する記事がほとんどないことである。

本誌のこれまでの論文を大きく分けると、一般的エネルギー論、外国人のエネルギー論、水素、石炭、風力、火力発電、廃棄物、バイオマス、省エネルギーに分類できる。これらはいずれも新エネルギーと省エネルギーと呼ばれるもので、開発途上のものが多い。

これからのエネルギー問題を論じる時に、石油と原子力の問題を避けて通ることはできない。

石油問題については各種の本や雑誌が出ているので、本会が特に取り上げる必要がないかもしれないが、会員の共通の理解のためにも現状と将来に対する正確な分析をしておく必要があるように思う。

原子力問題も安全性がからむと主張が種々あり、その将来性については賛否の分かれるところである。しかし、我が国のエネルギー問題の専門家集団である本会がこの問題を避けて通ることはできないように思う。創刊号で水科先生が述べられたように、本誌にこそ真のことを報告していただけたらと思う。

海のエネルギーも四面海に囲まれた我が国にとっては重要なエネルギーである。現在の技術では、必ずしも採算の合うものばかりではないが、これからの我が国や世界のエネルギー事情を考えると、いや応なしに海のエネルギーを利用しなければならないと思う。その日のためにも、本会が海のエネルギーにも積極的に取り組まれることを希望する。

* 佐賀大学理工学部助教授

〒840 佐賀市本庄町1

